

総務

町技ホッケーの普及策は

町技ホッケーによる
町づくり策

岩手町

人口一万六千人、北緯四〇度豊かな自然と調和した希望と安心が実感できる、交流と健康福祉の町をキャッチフレーズにホッケー競技を町技としている。

ホッケー日本一の町という町だけに四十年以上の歴史があり競技者もスポーツ少年団から社会人まで、家庭内でも三世代にわたりホッケーにかかわっている。また、ホッケーを小中学校の体育正科に取り入れている。悩みは少子化による競技人口の減少。施設等についても広域交流人口の拡大を図るため多目的使用可能とすることとして、昨年人工芝の張替えを宝くじ助成金を受け施工した。

意見

本町においても、ホッケーを今後も町技としていくならば、競技人口の増加対策あるいはホッケー場改修費用捻出のため、各種助成制度にマッチした施設整備構想・計画が必要と思う。



▶地元選手の北京オリンピック出場を祝う岩手町

住民との協働による 住民のための行革を

行政経営理念による
住民本位の行革

滝沢村

人口五万三千人、住民(顧客)との協働による総合計画を策定している村。

「人と人」「人と地域」「人と自然」が共栄し生き生きと幸せ輝くたぎざわを十年後の将来像としている。〇六年には自治への変革での活動成果が高い評価を受け、日本経営品質地方自治体部門賞を受賞した。

これからの自治体は、行政主体から住民主体への行政経営評価を行い、村長をトップに改革を行政側、住民側双方から推進している。また、村内を十地区に分けたまちづくり委員会を設置し、それぞれの地域の活動を支援するため、二名の職員を配置し、住民が主体となって二十五年後の将来像「滝沢地域デザイン」を策定している。補助金改革では、住民(団体)よりの公募制を採用。

意見

改革は住民に分かりやすい目標値を設定し、住民本位の改革に取り組むべきである。



▶村としての人口日本一の滝沢村

「倉美館」の効率的な運営を研究すべき

町文化会館「田園ホール」の管理運営

矢巾町



指定管理者による運営「田園ホール」正面

「田園ホール」は、音楽を中心に文化的活動の各施設として利用され、高校合唱部等が全国的な大会で優秀な成績を残すなど、実績もあがっている。

どこの文化会館も単独で採算が合う事業は困難。いかに町の負担を軽くするかというなかで、指定管理者制度を活用し、ノウハウをもつ民間へ委託できたことにより、利用者へのサービス向上につながった。運営費用の削減(百二十万円)や休館日の弾力的運用で稼働率が五十九%から七十五%に向上するなど効果もあげている。契約更新時に採算面で、指定管理者が維持できるか不安な面もある。

意見

「倉美館」も「田園ホール」と同様の施設である。建設後十三年がたち、徐々に維持費が増えてくる。民間委託を前提にしながらも良いが、他町村の先進事例を参考に、更なる効率化等を研究すべきと考える。

町民の健康のための経済的負担軽減を

高齢者医療費給付の町

西和賀町



これまでの経緯を説明する高橋町長

豪雪地帯で医療環境が劣悪であった歴史的背景があり、昭和二十九年国保沢内病院を開設した。昭和三十二年に就任した深澤村長のもと「生命尊重の理念」を確立し、乳児死亡半減運動に取り組み、無料乳幼児医療や老人医療費十割給付を開始した。財政が厳しいなかでも、「自分たちで生命を守った村」として全国に名が広まって以降、自信を持った施策となっている。保健福祉に対する制度の良し悪しは西和賀町の判断でよい。沢内村、湯田町との合併後も町内の開業医を対象にして、外来千五百円、入院五千円を超えた医療費を給付する制度の維持は、高く評価される。

意見

当町でも保健福祉への施策は拡充してきているが、町民の健康のための経済的負担軽減を図る施策は常に念頭におくべきと思う。

建設経済

潜在する観光資源等の有機的活用を

四つの駅の活性化対策

岩手町



▶交流の拠点として設置された「街の駅」

「新幹線の駅」「道の駅」「街の駅」「川の駅」の四つの駅構想は基本理念も明確であり、交流と連携を基に地域基盤づくりを進める中で、それぞれの個性を活かし相乗効果によりまちの活性化促進を図るといふ、国土交通省施工のものに町施工施設をうまく組み合わせた成功例であると思う。街の駅構想は当町であれば中心市街地活性化事業と同じと感じ、商店会等が更なる利用促進を図れば面白い施設になるかもしれない。

意見

町内の観光地や歴史文化財等を全体として関連を持たせ情報を発信させることでより訴求力が強まる。また、産直施設等を整備し、地産食材の使用度の割合により地産地消レストランとしてのランク付け等は地場産品の消費拡大、農産物生産者の所得の向上が図られる。

第三セクター経営見直しの時期では

第三セクターの経営見直し策

西和賀町



▶見直しが進む温泉宿泊施設

公認会計士による経営状況調査も実施

第三セクターは黒字ばかり追求してはいけないとの町長の話があったが、厳しい経営状況の中で経営評価委員会を設置し、経営見直しをするという積極的な取り組みが見られた。公認会計士による調査結果報告を踏まえ、経営評価委員会により今後の第三セクターのあり方、町の関わり方等について分析提言を行っている。また、町議会より健全経営の確保に関する決議が同時期に決議されている。

意見

第三セクターの所期の目的や産業振興での営利目的との関連等を原点に振り返るべきである。また、公認会計士による経営状況調査を行い、その結果を踏まえ経営安定の方策を協議し、今後の産業振興に反映させてはどうか。

常任委員会行政調査報告

7月9日 岩手県矢巾町 7月10日 岩手県岩手町

広報編集

▶編集方法を説明する矢巾町吉田議長



議会だよりの編集方策
広報編集常任委員会は所管行政調査として、岩手県矢巾町と岩手町の議会だよりの編集方策について調査を行った。
まず、矢巾町の議会だよりは全国町村議会広報コンクールで平成二年度から、入選六回、優秀賞三回、最優秀賞一回、と輝かしい実績を残している。
何故、このような素晴らしい成績を残すことができたのか。一つには議長はじめ、議会全体が立派な議会だよりを、町民に理解される議会だよりをつくるため全力を尽くしている姿を汲み取ることができた。
そのため編集委員全員が事務局と一体となって取り組んでいる。特に研修等には編集委員全員で参加し、全員で意思統一を図る、ここに並々ならぬ決意を感じた。紙面の編集では、表紙の写真の工夫、一ページ開いたところの記事のあり方など参考になった。

広報づくりの優秀議会を調査

岩手町では岩手町議会広報の発行に関する条例を制定し、広報発行の意思を明確にして取り組んでいる姿が印象的に感じた。岩手町議会も全国町村議会広報コンクールにおいて奨励賞を受賞するなど参考になる点が多かった。
ただこの町の議会だより編集は矢巾町にくらべ、議会事務局の関わりが多かったように感じ



▲全国広報コンクールで奨励賞を受賞

られ、そのことが紙面づくりプラスに働けば今後優秀賞の受賞も夢ではないと感じた。
後記
広報編集常任委員全員で、今回の調査を機に町民の皆さんに議会の様子が「分かりやすい・読みやすい」といわれる議会だよりづくりに努めてまいります。